

香りで春 感じてほしい

支援学校へ桜を贈呈 財団 春めき



西村副校長（左）と古屋理事長。後ろがモバイル春めき

南足柄市で生まれた「春めき」の支援などに取り組む早咲きの桜「春めき」一般財団法人「春めき」を活用した視覚障害者財団（古屋富雄理事長）

長、同市塚原）は4日、東京都世田谷区の特別支援学校都立久我山青光学園（相賀直校長）にモバイル春めき2鉢を贈った。同財団には視覚障害教育部門（幼稚・小学・中学）と知的障害教育部門（小学・中学）がある。古屋理事長は「花の香りがする桜で一足早い春を皆さんに感じてもらえれば」と話している。

春めきは、ソメイヨシノなどより早く咲き、花はやや濃い目の桜色。桜としては強い香りをもつのが特長で、花びらに鼻を近づけると、桜もちのような甘い香りが感じられる。この日の贈呈では、古屋理事長のほか、同財団と関わりがあり、春めきを使った香料を開発した長谷川香料、香料を使ってシャンプーなどを商品化したクラシエホームプロダクツの関係者も同席した。

同学園中庭で、古屋理事長から同校の西村みゆき副校長に、美しい花を咲かせたモバイル春めきが贈られた。古屋理事長によると、これまでに複数の企業が春めき関連の商品を販売。売り上げの一部は財団に寄与され、社会貢献につながる仕組み作りが出来つつあるという。

今後は企業と連携し春めきの普及を進めるとともに、財団主旨の「個人も企業も社会貢献」をモットーにした活動の幅を広げたい、と意欲を見せている。